

平成 28 年 8 月 10 日（水）

沖縄県保健医療部健康長寿課 結核感染症班

担 当：山内、仁平

電 話：098-866-2209

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生について

県内中部保健所管内においてダニ媒介感染症である「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の患者が1名発生しました。本県では初事例であり、医療機関及び広く県民への注意喚起のため、情報提供します。

【患者の情報】

1. 中部保健所管内在住 60代 男性。県外旅行歴なし。
感染源については現在調査中であるが、本島内で感染したものと推測される。
2. 経過
7月27日 発病（発熱、全身倦怠感、下痢等）。医療機関受診後、帰宅。
7月29日 医療機関へ緊急搬送。入院。
左鼠径部リンパ節腫脹、両側大腿部の筋肉痛、体幹に紅斑。
8月1日 解熱。
8月3日 保健所へ検査依頼。
8月5日 沖縄県衛生環境研究所にてPCR検査を実施。結果、PCR陽性。
（SFTSの病原体遺伝子検出）
8月8日 県内初事例となるため、国立感染症研究所へ確認検査を依頼。検体送付。
8月10日 国立感染症研究所による検査で陽性を確認
8月10日現在 入院中であるが、近日中に退院予定

【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは】4類感染症

SFTSは、SFTSウイルスを起病病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染するのが主だが、患者血液・体液との接触による感染も報告されている。

臨床症状：発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出欠症状など

潜伏期：6～14日

治療：対症療法。致死率は6.3～30%と報告されている。

発生状況：我が国では西日本を中心に、平成28年7月27日の時点で203名の患者が報告されている。

【予防】 マダニに咬まれないことが重要です。

- ・マダニが多く生息する場所に入る際には肌の露出を少なくし、防虫スプレーを適宜使用する。
- ・むやみに地面に腰を下ろしたり寝転んだりしない。
- ・吸血中のマダニを見つけた時は、無理にとろうとするとマダニの一部が皮膚内に残る可能性があるため、できるだけ、医療機関で処置を行う。
- ・山林や野原に立ち入って6日～2週間後発熱等の症状が現れたら、すぐに医療機関で受診する。

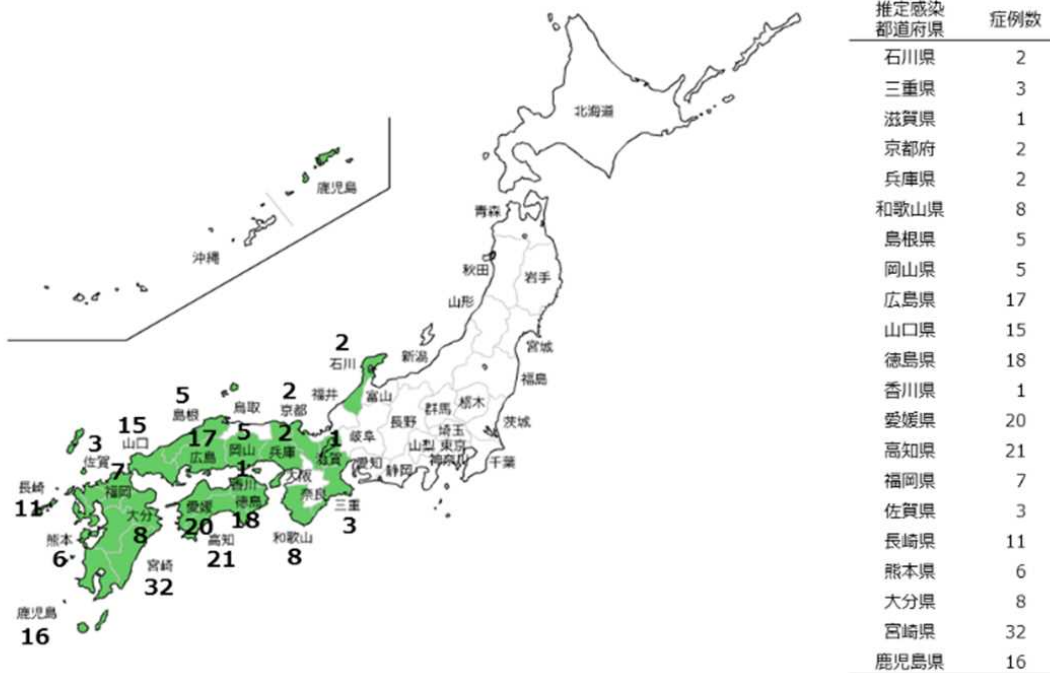
【参考】 県内のダニ媒介感染症発生状況

| | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 合計 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| つつが虫病 | 1 | | 1 | 2 | | 1 | 2 | 4 | 3 | 14 |
| 日本紅斑熱 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 |

※2008年の「つつが虫病」1例は県内初報告例

※2010年の「日本紅斑熱」1例は県内初報告例

図3 SFTS症例の**推定感染地域** (N=203, 2016年7月27日現在)



参考 URL (国立感染症研究所 HP より)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/sa/sfts.html>

マダニ対策、今できること

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html>